



## 今月の表紙 今市田植祭



晴天に恵まれ、汗ばむほどの陽気の5月27日(日)、小林地区の祭田で今市田植祭が行われました。

昔ながらの農作業を再現したこの祭り。まず、農耕馬が「代かき」をします。その間、あかねだすきにもんぺ姿の早乙女たちが、「今市苗取唄」に合わせて苗を株分けします。尺八に合わせて「今市田植唄」が歌われると、その苗を手で一本一本植えていきます。

今年は小林小・中学校の児童・生徒も参加し、多くの見物客が見守る中、一列に並んで田植えを行いました。

参加した小林小6年の皆川たか江さんと手塚綾香さんは、「疲れたけど楽しかった。機械を使わずに田植えをした昔の人は大変だったと思う」と話してくれました。



## 平家大祭



- ① 勇ましい掛け声とともに、山伏が炎の中を駆け抜けました。
- ② 鎧兜を身に付けた武士たちの武者行列。平家絵巻の世界へタイムスリップしたようです。
- ③ 華やかな九十九姫たちに、観光客からたくさんのフラッシュがたかれています。

6月5日(火)から7日(木)までの3日間、平家の隠れ里として知られる湯西川温泉街で平家大祭が開催されました。

初日の前夜祭では、平家太鼓と火の祭典が行われました。火の祭典で行われた火渡式では、山伏が高々と燃え上がる炎の中を駆け抜けると、見物に訪れた人々たちから歓声が上がっていました。

6日は、祭りのメインとなる平家絵巻行列が行われました。大勢の人が見守る中、鎧姿の平清盛や重盛をはじめとする勇敢な武士に扮した行列が湯殿山神社から平家の里までの道のりを練り歩きました。茨城県石岡市から家族や親戚と一緒に来たという飯田亭さんは、「雨が降ってしまったのが残念ですが、立派な衣装を着た武者

行列を見ることができてよかったです」と話してくれました。

7日の最終日を締めくくったのは九十九姫行列。市内外から集まった99人の女性たちが華やかな着物を身にまとい、姫君となって温泉街を優雅に歩きました。

3日間で約1万人の観光客が訪れ、平家落人伝説の残る地で、かつての平家の栄華を堪能しました。



雨の中行われた流鏑馬神事

5月17日(木)、18日(金)の2日間、日光東照宮春季例大祭が行われました。

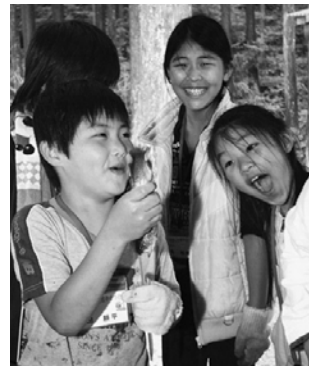
17日は「流鏑馬神事」が行われました。この日はあいにくの雨模様となりましたが、大勢の観光客が詰めかけ、射手的な観戦が繰り出されました。

18日には、この祭りの一番の見所である「百物揃千人武者行列」が行われました。これは、徳川家康公の神霊を駿府久能山から日光に改葬したときの行列を再現したものです。総勢約1,200人からなる長い行列は、表参道から御旅所までの約1kmの道のりを練り歩きました。色鮮やかな衣装に身を包んだ神馬や鎧武者が通るたび、大勢の人がカメラを向け、華麗な歴史絵巻を楽しんでいました。

宇都宮市からお子さんと友人で来た渡部弓恵さんは、「初めて見ました。次回は私も参加してみたいですね」と話してくれました。

5月19日(土)、20日(日)に行われた、つりを楽しむ親子のつどい。釣りを通して親子の触れ合いを深めてもらおうと、今市少年自然の家主催により1泊2日の日程で行われました。市内外から、24組(83名)の家族が参加しました。

2日目は天気にも恵まれ、新緑に囲まれて親子でマス釣りを楽しみました。釣りの後には、みんなで魚さばきにも挑戦。塩焼きにし



悪戦苦闘しながらも魚をさばき、焼く準備をする子どもたち。



て昼食に食べました。

友人に誘われて参加したという浦田靖夫さん一家(宇都宮市)は2日間で31匹を釣り、大漁賞を獲得。「たくさん釣れて、バケツから魚が飛び出してしまうほどでした。大漁賞を獲得できてうれしいですね。魚の味ですか? 自分たちで釣った魚なのでおいしいです」と話してくれました。

## つりを楽しむ親子のつどい

## 農地・水・環境保全向上対策 合同調印式



農地・水・環境保全向上対策に関する合同調印式が5月10日(木)、市役所本庁舎で行われました。この取り組みは、農村の担い手不足や高齢化が心配される中、農業者と地域住民が一体となって農地や農業用水などの資源、豊かな農村環境を守ろうというものです。

調印式で市と協定を締結したのは10組織。今後5か年にわたり、地域ぐるみで水路脇の草刈りや生物調査などの活動に取り組みます。



## 日光東照宮春季例大祭